



にしな ふみひで
仁科文秀議員

タクシーチケット使用枚数は
利用する市民の判断に任せて

質 本市には、高齢者が自宅で生活を続けていくためのサービスとしてタクシーチケット助成制度がある。今後、どのように市民満足度を高めていくのか。

答 令和4年度は2959人に12万2242枚配り、一人当たり平均16・6枚利用いただいた。令和6年度からは窓口での即日交付を予定している。

質 チケットは年度内に使い切るのが望ましい。最大で48枚発行しているのに、平均16枚しか使われていない。外出機会の増加を促すためとはいえ、一度に2枚までと制限を設けるのはいかがなものか。

答 健康寿命の延伸を目的に設けている。制限は継続していきたい。



5年後、10年後では
笠岡は沈んでしまっている

質 市長は社会動態が平成28年度のマイナス400人から令和4年度はマイナス122人まで改善したと自慢している。転入が多い外国人は集計に入っていないのでは。

答 外国人も入っている。

質 低年齢の子供に焦点を当てた施策を実施し、消滅可能性都市のらく印を払拭してほしい。子供の増、転入増、税収増など、企業誘致に比べ効果が上がりやすい。早期に子供、子育てへ投資するべき。

答 本市は先行投資して子育て政策にお金を投資できない自治体だ。企業誘致して毎年2億、3億の奨励金を払っており、5年後、10年後にいい循環に戻れば初めて子育て支援策に大きな投資ができる。



はらだ
原田てつよ議員

民間救急事業者との
協定について問う

質 緊急性の低い傷病者の搬送や転院時、看護師が同乗し、医師の指示の下、点滴やタンの吸入等の医療行為も行われ、また、余命宣告を受けた患者の最後の願いを叶える搬送業務も行われる民間救急事業者との協定についての考えを尋ねる。

答 民間救急事業者の活用については様々考えられるが、現在、協定は考えていない。

質 災害時の連携、福祉的観点からの看取り搬送について考えを尋ねる。

答 民間救急事業者との協定は、災害時だけでなく看取りという意味でも大事な要素だと思う。



笠岡諸島の振興・
活性化とは何か問う

質 笠岡市総合計画をはじめ、様々な場で笠岡諸島の振興・活性化という言葉が使われる。振興・活性化とは何か尋ねる。

答 笠岡諸島は、急激な少子高齢化で人口減が続いており、観光を最大限に活用する視点が重要だと考える。地元の方や観光業者が主体となり、利益の確保ができるよう全力で支援していく。

質 昨年12月末のフェリー運休を受け提出した陳情書の中に、「行政・航路事業者・住民が一体となって協働できる取り組みをしていただきたい」とある。考えを尋ねる。

答 笠岡市地域交通活性化協議会に航路分科会を設置したい。